



同窓会会報

看護系同窓会発足20年を迎えて

東京女子医科大学看護系同窓会

会長 武田 智子 (短大5回生、専攻科3回生)



東京女子医科大学看護系同窓会は発足20年を迎え、これまでの同窓会のあり方を見つめ直し、新たな同窓会のあり方を目指していく時期が来たのではないかと思います。理事

事一丸となり試行錯誤をしながら進めていきたいと考えております。2020年の総会は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、皆様の安全を考慮し「書面総会」とさせていただきます。報告書に一部誤りが生じ、皆様にご迷惑をおかけいたしました、申し訳ございませんでした。今後このようなことがないように気を引き締めてまいります。

昨年、会員の皆様へご協力をお願いしました「大学環境整備などへの寄付」に対し、10人の方(9月末時点)からご支援をいただきました。心より厚く御礼申し上げます。

本年3月に医看融合の新校舎「彌生記念教育棟」が落成いたしました。吉岡彌生先生の歴史とともに「至誠と愛」の理念のもと「建学の精神」が受け継がれることを誇りに感じております。同窓会においては、法

人のご厚意により念願でした同窓会室を女性生涯教育支援センター2階に設置していただき、拠点ができたことに感謝いたします。コロナ禍では、オンライン会議が多くなりましたが、コミュニケーションが取りやすくなり、活動が活発になったと感じております。

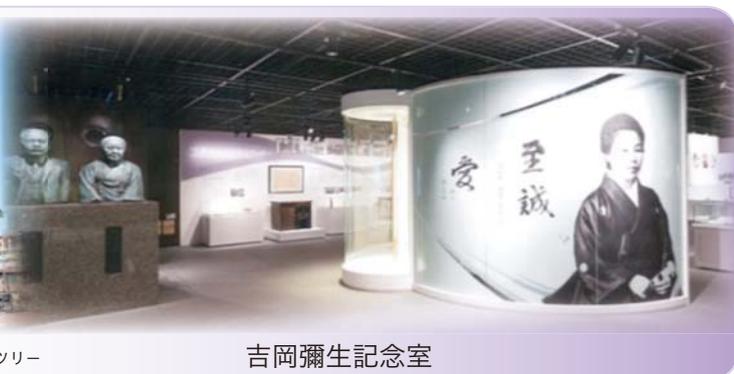
東京女子医科大学の病院3施設をはじめ、様々な現場で新型コロナウイルス感染症患者の対応や予防対策に奮闘しながら困難に行き当たることもあるかと思っております。そのような時に相談できる「看護系同窓会」を目指していきたいと思っています。

現在、組織体制の改革3本柱として「会員名簿継続的整備と管理」「活動・会計・会員管理簡易システム構築」「組織の見直しと会則の改訂検討」を掲げ、数年後を見据えての「専門職集団としての看護系同窓会のこれから」の目標を今回の会報誌に提示しましたのでご覧ください。

今後も現役校2校、病院3施設との連携を密にし、同窓生・学生の皆様からのご意見をいただき、双方向の情報発信ができるような同窓会にしていきたいと思いますのでご協力のほどよろしく願いいたします。



彌生記念教育棟外観



吉岡彌生記念室

目次

- 同窓会会長挨拶..... 1
- 理事長挨拶..... 2
- 学長挨拶..... 2
- 看護学部長挨拶..... 3
- 看護専門学校長挨拶..... 3
- 活動報告..... 4, 5
- 掛川キャンパスの紹介..... 5

- 特別企画『今こそ問う、専門職集団としての看護系同窓会のこれから』..... 6, 7
- 和田クニさんインタビュー..... 8, 9
- 同窓生の動向『COVID-19によってもたらされた変化・取り組み』..... 10, 11
- 理事一覧 退任挨拶..... 12
- 掲示板・編集後記..... 12

「看護系同窓会に期待すること」

学校法人 東京女子医科大学
理事長 岩本 絹子



まず初めに、東京女子医科大学看護学系同窓会 武田智子会長はじめ関係各位の皆様には、日頃より本学の運営にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。心より厚く御礼申し上げます。

また、この度は、2020年（令和2年）3月頃から新型コロナウイルス感染症の国内感染者が急増し、現在も大変困難な状況が続いております。新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた皆様方に、謹んで哀悼の意を表するとともに、現在も罹患されておられる皆様方のご回復をお祈りし、心より御見舞申し上げます。そして、医療の最前線でご尽力されておられる医療従事者・関係各位の皆様方に心より敬意を表し、深く感謝申し上げます。一日も早く事態が終息することを願っております。

さて、本学の看護教育は、今年で90周年という歴史と伝統があり、1930年（昭和5年）に設置された東京女子医専附属産婆看護婦養成所産婆学校に始まり、その後、変遷を重ね、看護専門学校は1995年（平成7年）に設立、看護学部は1998年（平成10年）に設立し、現在に至っております。これまで多くの卒業生を輩出しておりますが、過去において同窓生全体の把握が出来ておらず、2001年度（平成13年度）に看護系同窓会が統合されてからは、今年で設立20年目であり、まだまだ歴史が浅いのが現状であります。また、本学としては、看護系卒業生の活躍が必須にもかかわらず、例年卒業生の内部就職率があまり高くないことが、誠に残念であります。是非とも卒業生の皆様方には、ご自身の研鑽のために、そして、母校の発展のために、女子医大の病院で勤務し、女子医大の医療および先端医療を学んでいただきたい。

今こそ、看護系同窓会の皆様方のお力を結集していただき、「至誠と愛」の理念のもと、患者ファーストの医療を行い、女子医大の建学の精神「医学の蘊奥（うんおう）を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する」にあるように、社会に貢献していただくことを願っております。そして、看護系同窓会全体として、更なる発展をし続けていただくことを期待するとともに、今後とも引き続き、ご支援ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、看護系同窓会の皆様方におかれましても、お身体ご自愛いただきながら、益々のご活躍とご多幸を祈念いたします。

「同窓会発足20年にあたり」

東京女子医科大学
学 長 丸 義朗



同窓会発足20年にあたり、所感を述べさせていただきます。節目は毎日来ますが、長いタイムスケールで見ただけの場合、20年は小さいながらも歴史です。歴史の力は大きく、現在の我々に様々な点で迫ってきます。それを真摯に受け取り、進化・前進するために欠かせないのが省察です。

本学には医学部と医療施設がありますので、看護系同窓会は分離した組織ではなく、彌生先生が作られた全体の中の一部として、建学の精神に則って振り返るべきでしょう。「社会に貢献する」ことができているか、これに答えるためには、洗練された卒業生調査が必須です。卒業生調査のためには、名簿の完備が必須です。名簿の完成を目指して一年半が経過しました。完成半ばですが同窓生のご尽力でかなり進みましたことに感謝いたします。

看護学部では丁寧な大学院指導が実践されており、学問の「蘊奥を究める」一助となっておりますが、そこで得られた学識や技術が、医学部との医看融合に役にたち、現代医療で常識化しているチーム医療の質の向上に少なくとも本学医療施設で具現化しているかどうか。そのためには病院看護部との密で健全な関係が必要です。本学の規則や通知を無視した不適切な学生や職員によってメディアが炎上し本学に大きな不利益をもたらしましたことは事実で、「人格の陶冶」とは正反対に走る一部の存在には極めて残念です。病院職員は本学の卒業生のみで構成されてはませんが、臨床系医学部教員は全員病院で診療しております。従って建学の精神を学生に教える教員が自らそれを診療に実践しているはずで、病院看護部は学外からの非教員の入職者が多数存在しますので、本学看護学部卒業生は診療現場で、本学の精神を分かち合うよう努力せねばなりません。看護学部の教育が知識や技術だけでなく建学の精神の教育を、彌生先生の信念を教育していれば、これが達成できます。看護部入職者における本学卒業生がたとえ無勢でも、その信念の色で学外からの看護職を染めていただければと思います。

この20年の節目に、上述の3つを真面目に認識しなおし、彌生先生にご報告できるよう歩んで行こうではありませんか。

「今後の同窓会への期待」



東京女子医科大学
看護学部長 小川 久貴子

東京女子医科大学の看護系の同窓会が一本化となり、看護系同窓会として20年の節目をお迎えになられますこと、心よりお祝い申し上げます。

今年度は、医看融合をコンセプトとした念願の新校舎「彌生記念教育棟」が河田町キャンパスに完成しました。新校舎の各講義室には、自動録画装置を設置したおかげで、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言下でも学生は自宅でのオンライン講義を受けることができました。緊急事態宣言解除後の6月から、新校舎に登校してきた時の学生たちの輝く笑顔に、私たち教職員一同、移転後ようやく安堵した思いでした。9月からも、対面授業とオンライン講義を併行して、分散登校で教育を展開しております。

新校舎では、本学の「至誠と愛」の理念のもと、建学の精神を継承しつつ、挨拶・社会貢献などの社会規範教育を強化し、挨拶が行き交い、自然と協働する姿勢が培われる女性医療人の育成に努めております。また、1学年移転後の掛川（旧：大東）キャンパスは教育・研究の拠点とし、生涯健康支援研究支援センターを設立しました。

看護系大学の急増の中、本学で学んだ多くの卒業生は、本学はもとより他大学・病院・官公庁などで活躍しております。豊かな教育環境で育まれた志の高い卒業生が、看護系同窓会を基盤に活躍することを願っております。

また、今年度から看護教育の質向上委員会を学部内に立ち上げ、日本看護協会長福井トシ子氏を外部委員としてお招きし、母校の教育の発展に寄与していく所存です。卒業生の動向把握が難しいなか、昨年より学長主導のもと、同窓生名簿の充実を図っております。学生会員のうちから同窓会活動に参加し、本学への帰属意識を高め、「至誠と愛」の理念に基づき看護を発展させることが喫緊の課題と考えております。皆様、名簿作成へ情報提供をどうぞよろしくお願いいたします。

そのためには、同窓会活動を学生や卒業生に、より身近な存在で魅力あるものとするのが求められます。まずは、どのようなビジョンで活動をしているのかをPR発信することが重要です。今後とも、大学と連携しながらご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

「看護系同窓会発足20年」



東京女子医科大学看護専学校
校長 内潟 安子
(東京女子医科大学東医療センター病院長)

東京女子医科大学看護系同窓会が発足20年目をお迎えになられますこと、誠におめでとうございます。2020年は、世界中が非常なコロナ禍に見舞われ、本年の最大のイベントであった東京オリンピックが1年延期になり、コロナ第1波の収束でほっとするものつ

かの間すぐさま第2波が到来しその収束にまだまだ予断を許さない状況の真ただ中でございます。気づけば本年は残り1カ月余りを残すばかりとなり、コロナ禍で終始する1年となりそうです。

中国武漢に未知の感染症が発生し、2月に都の要請に従って帰国者・接触者外来を立ち上げた頃は、ウイルス情報に関してコンピュータは役立たず、第1次世界大戦中のスペイン風邪やそのさらに昔の14世紀のヨーロッパで大流行したペストの時の感染予防はどうであったかと勉強する始末で、手探りの中で、いわば丸腰で感染症の大波の中に突入していかねばならないという状況でした。第1波を経験した今は教職員一同ウィズコロナを前提にしてあせらずに対峙できております。

未曾有の治療薬もない感染症に、医療職も事務職も皆、知識、経験を出しあい、方針を決め忠実に勇敢に進んできたのですが、その中で一番存在感を発揮したのはナイチンゲールに端を発する看護であります。果敢なチャレンジ精神、そして柔軟な適応能力、この2つを兼ね備えた本学看護部のお陰で、本日も満床に近いコロナ病棟と救命ICUは患者さんにあせらずに対峙できています。

同窓会というのは、平生はゆったりしたネットワークの組織ではありますが、危急存亡の重大な局面に頼りとなるのは通常データで満載のコンピュータではなく、自身で経験しそれを継承していくことのできる同窓会のような組織ではないかと、まだ収束にはほど遠いコロナ禍の中で、ふっと考えております。

活動報告

I. 2020年度東京女子医科大学看護系同窓会 総会議決結果報告

- 2020年度東京女子医科大学看護系同窓会 書面総会議決結果（2020年7月～8月）
書面表決者 356名（無効6名）
※総会成立条件「会則第14条2項により、総会は正会員および学生会員出席人員より成立」

❖ 以下の通り各議案については賛成多数で決議いたしました。

議案	賛成	反対
第1号議案 2020年度事業計画	269	4
第2号議案 研究助成金制度改訂	269	4
第3号議案 役員の交代	271	2
第4号議案 2020年度予算案	268	5
委任状	75 ^{注1}	
みなし承認数	4,593 ^{注2}	

注1) 各議案表決と委任状にサインがあった場合は、議案表決を有効とカウントとした

注2) 返信はがき提出のない場合や白票を賛成とみなした数



https://www.dropbox.com/s/mdzh4tju5grhlbi/%E7%AC%AC20%E5%9B%9E%E6%9B%B8%E9%9D%A2%E7%B7%8F%E4%BC%9A%E5%A0%B1%E5%91%8A_20200916.docx?dl=0

□ 会員の皆様からご指摘をいただきました内容、ご意見や要望についてのご報告

コロナ禍の中、現場への応援のお言葉、ねぎらいのお言葉、ご意見などをいただきました。また、今回の書面総会の書類の配送により多くの方からご連絡をいただき、感謝申し上げます。皆様からの貴重なご意見をしっかりと受け止め、今後の看護系同窓会の発展に理事一同努力してまいりたいと思います。詳細は上記 QR コードまたは下記アドレスでご確認をお願いいたします。

II. 2020年度会員数の報告（2020/8/31現在）

分類	学校名	登録者数 ^{注1}	連絡可能数 ^{注2}
A	1965年以前の女子医科大学看護系学校	127	74
B	附属高等専門学校→改称:附属看護専門学校	1064	478
C	短期大学および専攻科	2234	1156
D	附属第二高等看護学校→改称:附属看護専門学校	1066	465
E	看護専門学校	卒業生	1873
		在校生	260
F	看護学部	卒業生	1738
		在校生	360
G	大学院	修了生	127
		在校生	40
合計		8889	5035

注1) 延べ数 注2) 実数

❖特別会員 6名 ❖賛助会員 21名



https://www.dropbox.com/s/d7wuy p4m3nnqukh/%E6%9D%B1%E5%A5%B3%E5%8C%BB%E5%A4%7%E7%9C%8B%E8%AD%B7%E7%B3%BB%E5%90%8C%E7%AA%93%E4%BC%9A_%E5%80%8B%E4%BA%BA%E6%83%85%E5%A0%B1%E4%BF%9D%E8%AD%B7%E6%96%B9%E9%87%9D_%E7%AC%AC1%E7%89%88.docx?dl=0

III. 本同窓会における個人情報保護方針

この度、本同窓会における個人情報保護に関する取扱い文書を策定いたしました。紙面の都合により、詳細は右記 QR コードまたは下記アドレスでご確認をお願いいたします。なお、必要に応じて文書は改訂いたします。

IV. 組織の見直しと会則改訂検討について

本同窓会発足 20年の節目に、本会目的「会員相互の啓発と親睦を図り、専門職者として看護の発展と社会に貢献するとともに、東京女子医科大学の看護の発展に寄与すること」を遂げるために、「専門職集団としての看護系同窓会」のあり方を再考し、活動提案や組織作りに関してご意見を広くいただき、そのうえで、必要に応じた会則の改訂を考えております。なお、会則は、左記 QR コードまたは同窓会ホームページにてご確認ください。

7期会長に就任して感じたこと

- 1) 現役2校(看護学部・看護専門学校)の役員が少ない 6期(2人),7期(4人)
- 2) 現役校生の意見反映の場がない
- 3) 主な活動は年1回の総会開催・講演会・会報発行・助成金にとどまっている
- 4) 全国に散在する同窓生とのつながりが少ない

本学会則



5) 現在の役員の活動現状と会則の役員役割が一致していない etc.
会員皆様からのご意見を参考に、今後の同窓会の在り方を検討してまいります。
下記の要領にてご意見を多数お寄せくださいますようお願いいたします。

ご意見箱



■ご意見記載 右記 QR または URL

<https://forms.gle/ZKHwigTB6Ucgf2Tr8>

■締め切り 2020年12月末日

看護専門学校自治会 キャンドルサービス

2019年度 自治会役員 亀山 玲奈(現3年)
自治会福祉委員 池田 奈央(現3年)

自治会福祉活動の恒例行事として、患者さんとそのご家族がクリスマスの雰囲気を感じ、癒しに繋がればとの思いで、東医療センターにてキャンドルサービスイベントを開催しています。

2019年度は、12月18日に実施いたしました。病棟では、手作りのキャンドルライトを灯しながらクリスマスソングを合唱し、一人ひとりにカードをお渡ししました。外来棟では、総合受付前で2018年度より好評のハンドベル演奏、クリスマスソングや「上を向いて歩こう」を演奏し、皆様から大きな拍手をいただきました。演奏後に外来患者さんにもカードをお渡し、ささやかなクリスマスプレゼントができましたことが、私たちのクリスマスプレゼントにもなりました。

そして、患者さんの快気を願うとともに、病院関係者の皆様に日頃の感謝の気持ちを伝えられるよう全学年で作成した「千羽鶴のモザイクアート」を東医療センターに寄贈いたしました。

キャンドルサービスイベントの開催に当たり、ご支援いただきました同窓会および病院関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

新生「掛川キャンパス」・生涯健康総合支援センターのご案内

看護学部基礎看護学 守屋治代

2020年4月(23回生入学)から、看護学部4年間の教育が河田町キャンパス新校舎へ移転しました。これに伴い、大東キャンパスは掛川キャンパスと名称を替え、生涯健康総合支援センターが設置され、彌生先生生誕の掛川の地で新しい役割を果たすこととなりました。それは、静岡県地域医療構想の枠組みの中で掛川市と連携しながら、地域全体の健康を支援するとともに、人々の生涯にわたる健康支援のための研究活動および人材育成を推進していくというものです。今後、掛川キャンパスでは次のような活動が行われます。

1. 学部教育・大学院教育の場として活用
2. 新設のエンドオブライフケア学(EOL)の一部実施
3. 地域の保健医療福祉専門職にリカレント教育の場として開放
4. 掛川市との共同研究の推進
5. これまでの掛川市との連携事業の継続
6. 施設の一部を掛川市の保健医療福祉にかかわる団体・組織等への貸与
7. 本学学生および職員の研究・研修施設として活用
8. 図書館機能の継続

今現在は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、集合プログラムの実施は見送られ、キャンパス内は静かなままです。早く、学ぶ人・地域の人々がここに集い、このキャンパスが活気を取り戻すことを願ってやみません。皆様、心よりお待ちしております。

特別企画「今こそ問う、専門職集団としての看護系同窓会のこれから」

新型コロナウイルス感染症という未曾有の状況の中で、発足20年を迎え、この節目に、これからの同窓会のあり方について現理事で検討いたしました。同窓会が「人」「年月」「場」をつなぎ、同窓生の拠り所となり、さらに、専門職集団としての活動をめざし、「いまとこれから」について描きました。

これから



看護学部旧校舎

看護専門学校校舎

2020年:新校舎 竣工

2021年 看護系同窓会 発足20周年

2010年:本学創立110周年

2008年

2001年 看護系同窓会発足

同窓会 ホームページ開設

2000年:本学創立100周年

1998年:看護学部開設

1995年:看護専門学校開設

これまでの同窓会の主な活動

- 2001年～: 会報誌発行 & 総会開催 1回/年
- 2005年～: 学生ボランティア活動助成
- 2006年～: 研究助成
- 2007年～: 会報誌内で東京女子医科大学の看護の歴史連載
- 2017年～: 同期会サポート



これまでの会報の東京女子医科大学の看護の歴史をまとめたものがご覧になれます



同窓会に求められている活動とは

- ❖ 現役校同窓生の役員増員
- ❖ 全国で活躍している同窓生とつながる
- ❖ 有事の時に活動できる組織
- ❖ 災害などで助けを必要としている人への支援
- ❖ 就学支援やキャリア支援
- ❖ 先輩会員の訪問や対面による直接的支援
- ❖ 女性の地位向上のためにつながる取り組みの検討
- ❖ 同窓生の動向、イベント、会社などの紹介 etc. (順不同)

会員の皆様へお願い

今後の同窓会活動についてのご提案・ご要望・ご意見などをお寄せください。



新たな活動の模索と展開

理事が感じる同窓会の変化

- * 各イベントでプロジェクトを組み理事全体で活動している実感がある
- * 将来を見据えた話ができて、やりがいを感じる
- * クラウド利用やリモート会議の導入で迅速に情報を得る事が可能となった
- * リモート会議を通して話す機会が増え、理事同志の距離が近くなった
- * 理事業務の改善・低コストが実現し、簡便化された

組織改革の3本柱

- 会員名簿継続的整備 & 管理
- 活動・会計・会員管理簡易システム構築
- 組織の見直しと会則の改訂検討

見える化 簡便化 コスト削減

インタビュー

コロナ禍だからこそ出会えた和田クニさん

今回、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、私たちの日常生活は一変し、外出自粛や働き方の変化をきっかけに、仕事、生活、価値観などと向き合うこととなりました。このコロナ禍の生活変化により、私たちは99歳(インタビュー当時)の同窓生である和田クニさん(旧姓齋藤)と出会うことができ、お話を伺うことができました。(以後、クニさんと呼ばせていただきます)

インタビューは8月13日に感染防止対策を行いご自宅に訪問いたしました。新型コロナウイルスの感染者が再び増加傾向にあったことや、クニさんのご年齢を考慮し、短時間とし、後日ご家族のご協力のもと、リモートで補足をさせていただきました。

今回のきっかけとなったお写真や往診カバンを拝見しながら、当時の女子医大の様子など眼を輝かせながら様々なお話をいただきました。

なお、卒業証書など資料として東京女子医科大学史料室にご寄贈いただく予定です。

インタビュー風景



自宅待機での断捨離で懐かしの思い出がよみがえった

5月連休が開けた頃、クニさんの娘さんより同窓会へ1枚の写真についてお問い合わせいただきました。

クニさんの娘さんが外出自粛の時期に断捨離をしたところ、古い写真を発見されました。白衣を着た女性たちとともに中央に着物を着た女性が写っており、この写真がいつのどんな写真であるのか、というものでした。

娘さんが写真を見せても、はじめはいつの、何の写真かわかりませんでした。タブレットで拡大して見せたことをきっかけに、“真ん中は彌生先生、隣は彌生先生の弟さん、大村先生、同級生の名前や出身、人柄・・・”鮮明に次々と当時のことを思い出されました。

(クニさん: 中列左から3人目の方) 写真を見て「懐かしい」と過去の時代を走馬灯のように思い出していました。



きっかけになった集合写真

女子医大で助産婦の資格を取ろうと思ったきっかけ

青年学校卒業後、上京して親戚の家でお手伝いをしていました。同級生が藤沢市の病院で働いており、その方と文通しているうちに、一緒に働かないかと誘われて看護婦見習いとして入りました。働きながら勉強し、その当時は警視庁で試験を受け、看護婦の資格を取りました。

その後、杉並の個人病院で働いていましたが、母から田舎に帰るなら看護婦だけでなく助産婦の資格を取ることを勧められ、自分でも自立するためには助産婦の資格があったほうが良いと思っていました。その頃、いろいろな婦人雑誌に吉岡彌生先生が掲載されていて、先生のお顔が載っていない雑誌はなかったほどでした。ある時に先生の学校の案内が出ていたのを見つけて、ここに行けばいいんだと思いました。

私は看護婦の資格をもっていましたが、学校では看護婦・助産婦両方を学ぶ必要があり、助産婦だけ学ぶというわけにはいかず、両方を勉強することにしました。彌生先生とお話したのは入学時の面談だけです。その時、彌生先生は「結婚が遅くなるけどいいですか」と聞かれました。この時すでに25歳だった私を気遣ってくれたのだと思います。私は「覚悟はできています」と、きっぱり即答しました。



彌生先生のブロマイド

和田クニ（旧姓斎藤）さんの経歴（現在 100 歳）

大正 9 年（1920 年）新潟生まれ
昭和 13 年（1938 年）青年学校卒業
昭和 14 年（1939 年）神奈川県藤沢市の病院で見習い看護師として働く
昭和 16 年（1941 年）看護婦試験に合格（警視庁）、個人病院で働く
昭和 19 年（1944 年）東京女子医学専門学校附属産婆養成所 入所
昭和 23 年（1948 年）同養成所卒業
昭和 24 年（1949 年）助産院開院
昭和 36 年 第 1 子出産を機に閉院

このインタビューの後、東京女子医科大学の新校舎や彌生記念館にぜひ行きたいという目標ができ、水中ウォーキングを週 2 回頑張っていますと連絡がありました。
新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着きましたらご招待したいと考えています。



クニさんと卒業証書、武田会長

助産院開業について

卒業後は分娩室で勤務し、昭和 24 年に蒲田で助産院を開院しました。助産院は親戚が 4 畳半と 3 畳という小さな助産院を建ててくれました。

最初に取り上げた子は、近所で働いている方のお子さんでした。開業するにはしっかりとした意志と覚悟をもってやらなければならないと思います。途中で投げ出すことはできないですし、妊婦さんからの信頼も大事です。私は自分で考え、自分の信念を大事にやってきました。

臨月がきてもなかなか陣痛が来なかった妊婦さんに対して、私なりに考えて運動を指導するといった具合に工夫しながら出産に携わってきました。自分に娘が授かり、妊娠中も出張で赤ちゃんを洗いに行ったりしていましたが、出産後に自分の子どもを育てながら続けていくことは難しいと思い、十数年やってきた助産院を閉院することにしました。



最初に取り上げた赤ちゃん



お母様と蒲田の助産院の前

クニさんから同窓生へメッセージ

自分が信じたことは、どんどん進んでいきなさい！止まることなく、前進しなさい！

インタビューを終えて

戦争を知らない世代にとって、戦時中、戦後という激動の時代に看護を志し、強い信念をもってこられたクニさんの言葉の一つ一つに勇気づけられました。助産婦として自分ができることを常に模索され、助産院を閉めた後も看護の知識や学びを生活の中で実践されたからこそ、100 歳の現在もはつらつとしておられる秘訣ではないか、と感じました。戦後 75 年の今、「したいことを自由に選べる時代」の中で、未知のウイルスに負けることなく、これからの看護でできることは何かを常に考え前進していきたいと、心強いメッセージに背中を押していただきました。

婦人雑誌のお話では、吉岡先生が当時の多くの女性に新しい生き方を通して希望を与える存在であったことがわかり、胸が熱くなりました。卒業後も生涯を通して自立した女性としてのクニさんの生きざまは、まさに本学の建学の精神と重なりました。それらが現在に受け継がれていることを改めて感じ、歴史ある本学に学んだことを誇りに思うと同時に、改めて自分の中に問いが生まれました。

私達同窓生が、次の世代にどのようにつないでいくのか。今回のテーマ「今こそ問う。看護の専門職集団としてのこれから」をさらに意識するきっかけをいただけました。

同窓生の動向

COVID-19によってもたらされた変化・取り組み

新型コロナウイルス感染症に伴う看護系技官の活動と看護教育行政

厚生労働省 今村 仁美
大学院博士前期課程（15回生）

令和元年の年末、中国湖北省武漢市において原因不明肺炎の発生が複数報告されるようになりました。年が明けて1月下旬には、日本国内においても新型コロナウイルスに関連した肺炎患者の発生が報告されました。1例目の国内発生から今に至るまでの約9か月、新型コロナウイルス感染症への対策を、日本の危機管理上の重要な課題であるという認識の下、まずは国民の生命を守るために、様々な対策を講じてきました。中国からのチャーター便による帰国者の受け入れ、ダイヤモンドプリンセス号の下船オペレーション、地域における医療提供体制の逼迫する中、看護技官も医療現場とはまた違った最前線に立って、活動していました。

また、感染症への対策は看護行政にも影響を及ぼしました。

私が担当する看護教育に関しては、医療提供体制の維持と感染予防の観点から実習施設の学生の受け入れ制限や実習中止などの対応が長期化することが見込まれ、必要な知識・技術の習得が難しいといった課題があげられるようになりました。これらの課題の解決に向けて、実習の代替とした学内における演習を充実させるための事業を創設し、タイムリーに自治体、看護教育機関などと情報共有をしながら、必要な支援の検討を行っています。

看護部協働プロジェクト「COVID-19 関連対応プロジェクト」 での新たな取り組み



東京女子医科大学病院 若林 留美
看護短期大学（25回生）大学院博士前期課程（14回生）

新型コロナウイルス感染症が、世界的に流行する緊急事態の中、当施設でも、コロナ患者専用病棟開設などの対応に追われています。急ピッチで体制を整える経過で、様々な不安を抱くスタッフの声を耳にし、自分がコロナ病棟で勤務した際も“患者と視線を合わせ、そばに寄り添う”という、当たり前の看護も、時には制限を要する状況に苦悩しました。そして、感染拡大防止の観点から、すべての患者・家族が行動制限を強いられており、様々な困難感を抱えていました。

そこで、スペシャリストが領域を超え、コロナ関連部署や看護部との協働により、COVID-19に対応しつつ、質の高い看護の提供を目指すために、「COVID-19 関連対応プロジェクト」を立ち上げました。感染看護・リエゾン看護・救急看護・集中ケア・がん看護・糖尿病看護・脳卒中リハ看護・心不全看護など、様々な領域から15名のプロジェクトメンバーが中心となり活動しています。COVID-19対応における問題点を抽出し、コロナ病棟への支援体制・勉強会の検討、面会制限下における患者・家族ケア（面会や看取り、感染対策に関する情報提供など）の検討を実施しています。

新型コロナウイルス感染症への対応は、今までの看護の在り方が通用しない場面も多くみられます。例えば、患者のベッドサイドに腰掛け、患者と視線を合わせてゆっくりお話を聞くなど、無意識に行っていたことも、コロナ病棟では感染予防の観点で、制限されることもあります。また、家族が面会するタイミングをみながら、患者とともに療養指導を行うことも、今は難しい状況です。このように、いつも行っている大切な看護に気付く機会となることで、この状況を打破するために「COVID-19 関連対応プロジェクト」の結成や、スペシャリストの領域を超えた連携へとつながっています。そして、スペシャリストと管理職が連携することで、オンラインを用いた療養指導や、部署間の支援体制など、新たなケア方法の導入の検討にも結び付いています。このようなポジティブな面にも目を向け、今後も苦難を乗り越えていきたいと思えます。

おかげさまで



訪問看護ステーション 坪内 紀子
附属看護専門学校 (25期生)

早いもので、卒業してから30年は優に過ぎているような気がします。訪問看護に携わってからはほぼ20年。気が付くと若いころは『なんでも(看護師以外)できる気がしかなかった』が、訪問看護しかできない身の上になっており、かなり重い腰を持ち上げて、自身で会社を興し、現在に至っています。8年も続いているのは脅威です！きっと、“なんちゃって精神”がカギなのかしら!?

学生の頃は、当時珍しかった訪問看護の実習もあり、故山崎淑子先生に厳しくも暖かい個別指導を受け、くらいつきました。その後、先生のご実家の蔵の掃除を手伝いに四国に訪れたことも懐かしい思い出です。卒業後様々な道があった中で、何の抵抗もなく在宅医療の世界に進んだのは、女子医大看護専門学校で学んだ看護が根底にあるのかもしれない。

さて、この異常な状況の中、私たち訪問看護師は、病院や施設で働く看護師たちには申し訳ないくらいコロナ禍の影響が、ほぼ皆無だと感じたのが実情です。利用者様をはじめ、そのご家族やスタッフなど、周辺の方々にも感染者はいません。訪問に際し常時マスクを着用していますが、特段日常と変化がありません。強いて挙げるとすれば、市場から衛生材料が消え去ってしまい、買い求めるのにスタッフが苦勞したくらいです。

ありがたいことに、衛生材料は知人や利用者様、事務所の下のコンビニの店主から寄贈していただけたり、国や区から大量に届いたりしました。おかげさまで、訪問看護ステーションのケアを利用者様に提供することができました。本当に感謝です!!

掛川市保健センターの現状



掛川市役所健康医療課 保健師 櫻井 郁美
看護学部 (3回生)

私は現在静岡県掛川市の保健センターにて保健師として働いています。出身地は東京都でしたが、掛川市での就職を希望したのは、在学中、地域看護学の実習を掛川で行った際、保健師と地域住民との距離感がとても近いことに魅力を感じたからです。

そんな静岡県の新型コロナウイルス感染症に関する、現在までの状況としては、いくつかのクラスターの発生は見られたものの、幸い、掛川市においては、爆発的な感染の広がりは見られていません。それでも、少なからずその影響によりもたらされた変化は感じているため、相談業務、健康教育業務、健診・検診業務の3つに分け、振り返ってみました。

まず、相談業務ですが、感染拡大を受け、まず高齢者の電話相談が急増しました。マスコミによる連日の報道を受け、過剰に心配されている方も多い状況でした。基本的には、心配と感じている内容を整理し、現時点での医療体制として、必要があれば検査を受けることが可能なことなどを伝えることで、安心される方が多かっただけのように感じます。相談内容としては、新型コロナウイルス特有ですが、対応としては、「人と話す」ことで安心し、気持ちが落ち着く点は、今までの対応と変わりがないと感じました。

次に、健康教育についてですが、地区活動として行っていた健康講座は、ほとんどが中止となりました。未だ収束が見えない中、今後どのように健康情報を発信していくかは、大きな課題となっています。若い世代に関しては、オンラインなどの利用で解決することも多いが、高齢者への対応に関しては、工夫が必要になります。

最後に、健診・検診業務に関しては、現在、市民の皆さまが安心して、安全に受診できるよう、入り口での体調チェックを徹底し・密を防ぎ・短時間で終了できるよう、スタッフでアイデアを出し合いながら対応するとともに、新たな体制作りを構築しています。

今回のコロナ対策を考える上で、改めて、各事業の目的に立ち返り、限られた環境の中、どうすれば目的が達成されるのか、柔軟な対応が求められていると感じました。新たな生活様式が定着しつつある中、今後も地域住民の皆さまの健康を守るため、精一杯対応していきたいと思えます。

第7期 (2019.7.1 ~ 2022 年度総会日) 東京女子医科大学看護系同窓会役員一覧

顧問	理事長 岩本 絹子 先生	会長 武田 智子			
特別会員	学長 丸 義朗 先生	副会長 木内みゆき	滑沢 晴美	青木 雅子	茂木 奈津
	至誠会会長 岩本 絹子 先生	理事 藤原由紀子	柴田 典子	丹呉 恵理	廣川 友香
	看護学部長 小川 久貴子 先生		今村めぐみ	石阪 香	嶋田 正子
	看護専門学校長 内 湯 安子 先生		小野久美子	中村 邦子	古川 智美
	東京女子医科大学病院長 田 邊 一成 先生	監事 後藤 浩子	三輪 生子	菊地 聡子	
	東京女子医科大学東医療センター病院長 内 湯 安子 先生	代議員 大井香奈美	飯塚 晶子		
	東京女子医科大学八千代医療センター病院長 新井田 達 雄 先生	外部監査 渡邊世津子	大熊あつとよ	濱田亜希子	日暮久美子
			税理士 佐野 典子	田原 昌子	田中 桃子
					※太字 新規役員 (掲載は順不同)

❖❖❖ 退任役員のお知らせ ❖❖❖

期の途中ですが以下の3名の役員が退任しました

福田 浩美 (元副会長)

加藤 彩 (元理事)

秋山 紀江 (元代議員)

これまで同窓会活動にご協力いただき感謝いたしますとともに、今後のご活躍を祈念いたします。

子供の頃より漠然と看護師になりたいと考えていた私は、いよいよ自分の将来を決めるにあたり「女性の経済的自立」および「至誠と愛」という理念に憧れ、本校の受験を決めました。今は愛着を感じる建物も、当時は立ち並ぶ建物の大きさに圧倒され「本当にこの先やっていけるのだろうか」と不安になりました。入職後は「どんなに辛くても3年は絶対に頑張ろう」と思い働きはじめました。理事就任の話を受け、同窓会という活動を通して「つながる・つなげる」役割に関わり、脈々と受け継がれる精神を感じました。このような機会をくださった同窓生みなさま、支えてくださった会長、理事の方々本当にありがとうございました。
加藤 彩

掲 示 板

□ 第21回 東京女子医科大学看護系同窓会総会 開催予定

日 時：2021年7月3日(土) ※開催形式は、リモート開催予定
HPアドレス：<http://www.dosokai.ne.jp/kangokeidousoukai/>

□ 第17回 東京女子医科大学看護学会学術集会のご案内

日 時：2021年10月2日(土)
場 所：(未定)
大会長：坂本 倫美 (東京女子医科大学 看護専門学校主事)
テーマ：「命と暮らしを支える看護師を育成する」
HPアドレス：<http://nrctwmu.jp/meeting/>

□ 研究助成金公募について (HPアドレス：<http://www.dosokai.ne.jp/kangokeidousoukai/>)

研究助成金制度をリニューアルいたしました。
応募要領詳細は、同窓会ホームページにてご確認のうえ、申し込みください。

□ 図書館利用案内【周知事項】

現在、学外の会員は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため入館不可となっております。ご利用の際は大学ホームページに案内をご確認のうえ、ご利用をお願いいたします。

□ 寄付金のお願い (HPアドレス：<http://www.twmu.ac.jp/univ/about/kifu.php>)

東京女子医科大学ホームページにて詳細をご確認のうえ、ご協力をよろしくお願ひいたします。
❖大学環境整備などへのご寄付
❖新型コロナウイルス感染症に関する寄付
❖奨学寄付
❖遺贈による寄付制度

図書館利用案内



寄付金のお願い



住所変更届のお願い

お知らせや会報など円滑にお届けできるよう、住所・メールアドレスなど変更された方は、速やかにご連絡をお願いいたします。

なお、今後、電子化を進めていくため、同窓会からのお知らせをmailでお受け取り可能な方は、必ず、QRコードより申請をお願いいたします。

(または、同窓会事務局メールアドレス宛メールでも可能；twmu.nursing.aa@gmail.com)

住所届け出用



編 集 後 記

会報誌20号をお読みいただきありがとうございます。今般、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた皆さんに哀悼の意を表します。また闘病されている皆さんの一日も早い回復を祈念し、医療現場などで働いている皆様に感謝いたします。2020年は新型コロナウイルス感染症の流行によって我々の生活様式も劇的に変わり、東京オリンピックの延期、緊急事態宣言、3密を避ける生活様式など環境や生活の変化を痛感しています。会報作成において理事の中からワーキンググループを立ち上げ、ZOOM会議を経て、理事の意見を反映させながらの作成となりました。次号作成時には、新型コロナウイルス感染症が落ち着き明るいニュースをお送りできることを祈っています。末尾になりましたが、今回ご協力いただきました皆様心より感謝申し上げます。(F.T.)
会報担当 古川智美 嶋田正子 茂木奈津